

たより

宮本百合子

青空文庫

いきなり斯うした手紙をさしあげるのを御許し下さいませ。

これを手に御取りなすつて、貴方はきつとオヤオヤと御思いなさるでございましょうねえ。

悪口を云い云いあつちこつち泳ぎ廻つて居る私を思い出しなさる事でございましょう。

今日の今まで私は今斯うやつて貴方へのおたよりを書こうなどとは夢にも思つて居りませんでした。

けれども、夕暮にさえなりますと、私の心に夕栄の雲の様に様々な色と姿の思い出が湧きます中の一つが、とうとう斯うやつて、筆をとらせたのでございます。

お覚えでいらつしやいましょう。

冬の落日が木の梢に黄に輝く時、煉瓦校舎を背に枯草に座った私共が円くなって、てんでに詠草を繰つて見た日を。

安永先生が浪にゆられゆられて行く小舟の様に、ゆるりゆるりと体をまえうしろにゆりながら、十代の娘の様な傷的な響で、日中に見る夢の歌を誦していらつしやつた時、私の左の向うに座つて居らつしやつた貴方がじいっと目を下に落して聞いていらつしやい

ましたっけねえ。

あの御姿が私の心をどうしてもはなれませんか。

何かにつけて時々思い出されるのでございますよ。

その静かな様子が今夕も私の心に帰って参りました。

目を瞑るとあの細い声が再び私の耳にすべり込んで来る様でございます。

そのおだやかな柔く心をなでて行く様な思い出は、私を、どうしても貴方への最初のお便りを書かねばならない様に致しました。どうぞお読み下さいませ。

まあ今晚のよい雨でございます事。

私は、自分の四方を本箱とおもちやでかこまれた書斎の中で心を浄めて行く様な雨だれの音をききながらそう思つて居ります。

荒れた土の肌もさぞ美しく御化粧されて行く事でござんしょう。

あれまあ、闇の中で木の葉の露が目痛いほど輝いて居りますよ、何か物を申す様ですけど私にはきこえませんの。

雀の巢は濡らされませんでしたろうかねえ。

毎日毎日重いのかかる様な日がつづきましたので、昨日と今日の雨がどんなに私の心

をすがすがしくさせてくれる事でございましょう。

金の櫛をさして眼の細い土人形の姫だの、虫封じのお守りの小さい首人形をながめながら、しつとりと重い髪の毛のひだを撫でて居りますと、包まれた様に柔かな心の底から、何がなし光がさし出て来る様な気が致します。

この上なくしずまった心で貴方様を思つて居るのでございますよ。

けれどもまあ考えて見ますとふしぎではござんせんか、毎日毎日お目にかかつて居る時は、別にこれぞと云つて、御なつかしくもお話したいとも思いませんでしたのにねえ。

下らない事を云い合つて、白い眼をして居る群からはなれて、悲しみの多い物しずかな目を御送りなさる貴方様がおしたわしいのでございますよ。

悲しみと申しますものは尊いものでございます。

目に堪えられぬ涙の熱さを知らぬ人は、神様が——私は神様のいらっしやるのを思いま
せんですけれど、はてしない宇宙に満ちた偉きな力を神様と申さずにほかによい言葉がござ
いますでしょうか——人の心をやわらげるためにおそなえなすつた得がたい宝を見
忘れた人でございますまいか。

悲しみは、世の中のすべての人をいつくしむ心をお与え下さいます。

幾重にも幾重にも被われた真の物の尊さを教えて下さいます。

どなたの御目にも私は、豆蔵みたいにうつって居る事でござんしょうねえ。おもてはそれでも決してかまいません。

けれどもはてしない悲しみになきぬれて居る霊があるのをお忘れ下さいますな。

こう申しながらも、私の眼にはしみじみと涙が湧いて居ります。

あまり夜がしずかでございます故、

あんまりしとやかな心持になりました故、

此頃は悲しみのない先頃の貴方様より、どれほど尊いいろいろの事をお考えなすつた事でございましょう。

死と申しますふしぎな事についても、霊と申します事についても。

お目に掛りとうございます。

静かに静かにおはなしが致しとうございます。

達者で居る私は、毎日本をよみながらものを書きながら、どれほど考える時間の少ないのを不安がつて居るでございましょう。

夜は人間を賢くすると申します。

私はこれから先、もつともつと書きつづけとう存じますけれどもお目がかかるのが相すみませんからさようならと申しましょう。

けれども私は、若し御ゆるし下さいますならば、いつまでもいつまでも心置きなく物を申しあげられる人になりとうございます。

どうぞ私が気まぐれで申しあげるのでない事をお信じ下さいませ。

お休み遊ばせ、よいお夢を。

あしたお日様が輝き出ますれば又意味深い今日が生れる事でございましょう。

五位鷺の 悲しげに天馳ける夜

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第三十卷」新日本出版社

1986（昭和61）年3月20日初版発行

※1915（大正4）年8月21日執筆の習作です。

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2008年2月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

たより

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>